



ミネベア株式会社決算説明会

2004年3月期第1四半期決算

2003(平成15)年 8月7日

代表取締役社長執行役員 山本 次男

2004年3月期第1四半期 業績サマリー

(百万円)	----- 2003/3期 -----				2004/3期	1Q 伸び率	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	前年同期比	前四半期比
売上高	72,367	64,882	68,723	66,230	66,489	-8.1%	+0.4%
営業利益	6,031	4,145	5,519	3,657	4,259	-29.4%	+16.5%
経常利益	4,524	3,143	4,036	1,717	3,285	-27.4%	+91.3%
税引前利益	4,203	2,614	3,735	10,057	2,177	-48.2%	-
純利益	1,903	640	1,889	6,866	421	-77.9%	-

売上高は計画を下回ったが、営業利益は計画をほぼ達成

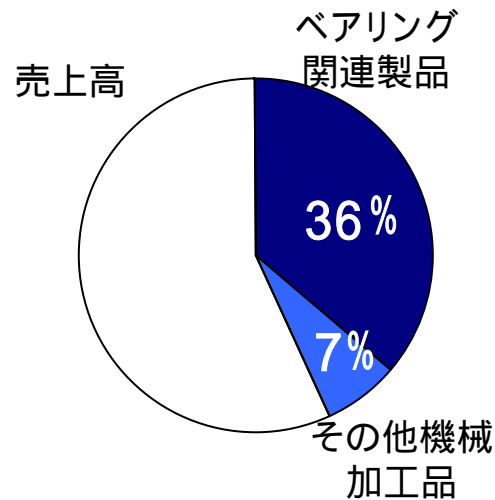
第1四半期 セグメント別収益

(百万円)	----- 2003/3期 -----				2004/3期	1Q 伸び率	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	前年同期比	前四半期比
(売上高)							
機械加工品	31,668	28,641	28,723	29,085	28,606	-9.7%	-1.6%
ベアリング関連製品	26,420	23,638	23,845	24,035	23,959	-9.3%	-0.3%
その他機械加工品	5,249	5,002	4,879	5,050	4,646	-11.5%	-8.0%
電子機器	40,699	36,241	40,000	37,144	37,883	-6.9%	+2.0%
回転機器	20,793	18,140	20,521	19,734	21,458	+3.2%	+8.7%
その他電子機器	19,908	18,097	19,480	17,412	16,424	-17.5%	-5.7%
合計	72,367	64,882	68,723	66,230	66,489	-8.1%	+0.4%
(営業利益)							
機械加工品	5,098	4,065	4,771	4,585	4,908	-3.7%	+7.0%
電子機器	933	80	748	929	648	-	-
合計	6,031	4,145	5,519	3,657	4,259	-29.4%	+16.5%

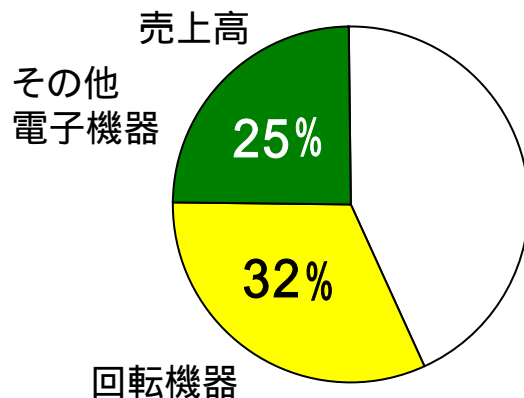
第1四半期の状況

回転機器の
売上高が増加

機械加工品セグメント



電子機器セグメント



ベアリング関連製品

ボールベアリング: 売上高(売上比率25%) 前四半期比 +1%、
中華圏での売上が伸長

ロッドエンド・スフェリカルベアリング: (5%) +2%、底ばい圈
ピボットアッセンブリー: (6%) -7%、ユーザーの生産調整

回転機器

スピンドルモーター: (15%) +9%、FDBモーターが増加

ファンモーター: (10%) +11%、シェア拡大、PC向けが増加

ステッピングモーター: (7%) +5%、ハイブリッドタイプが増加

その他電子機器

キーボード: (8%) -21%、ユーザーの在庫調整及び単価下落

エレクトロデバイス: (4%) -18%、需要減少、

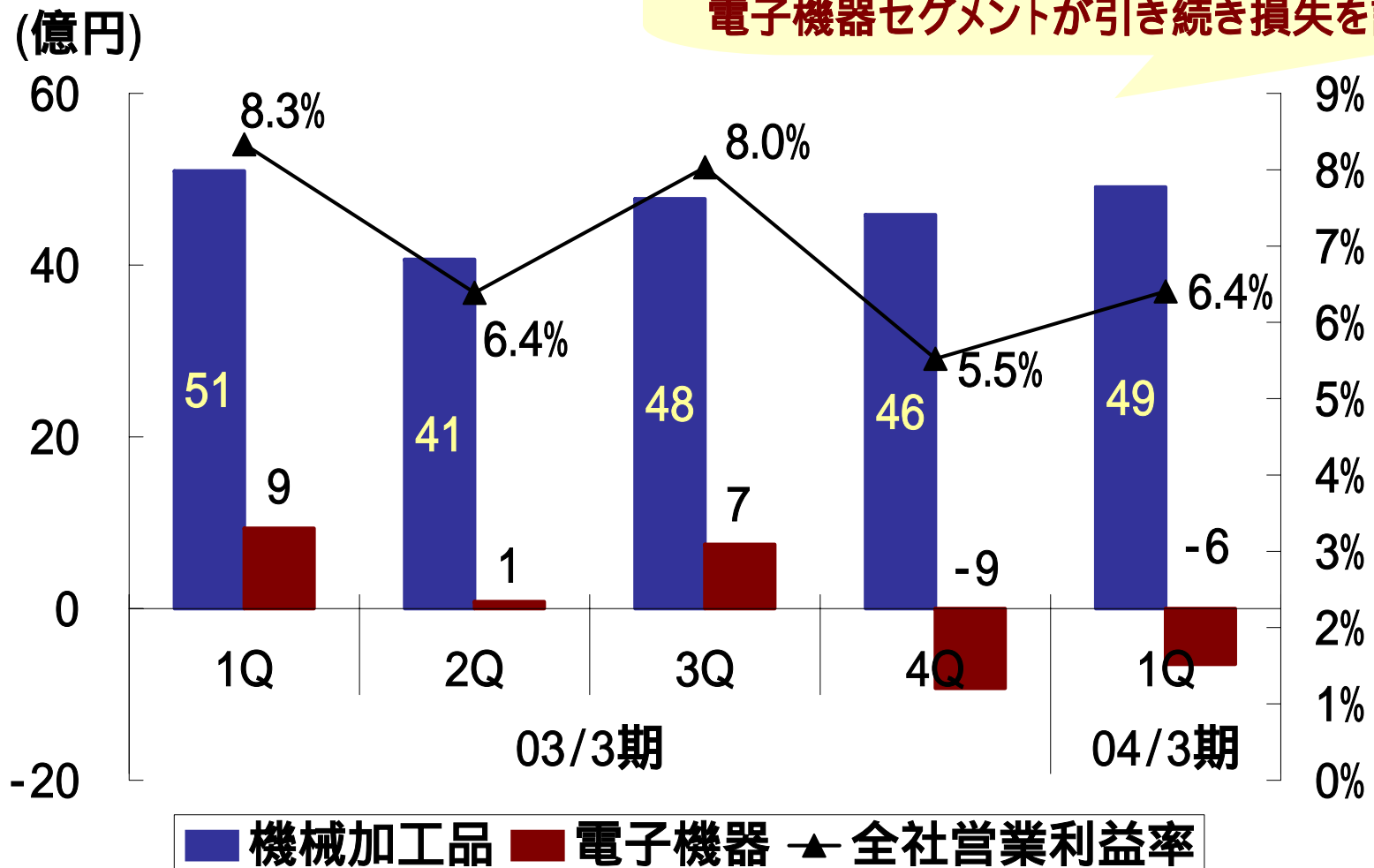
ライティングデバイスは増加

パワーエレクトロニクス: (6%) +16%、受注残に対応

スピーカー: (5%) +16%、季節要因

セグメント別営業利益推移

機械加工品セグメントの営業利益率が
17%台へ回復
電子機器セグメントが引き続き損失を計上



第1四半期 用途別売上高・海外地域別売上高

ベアリングの売上が伸び、
家電機器向け売上が増加

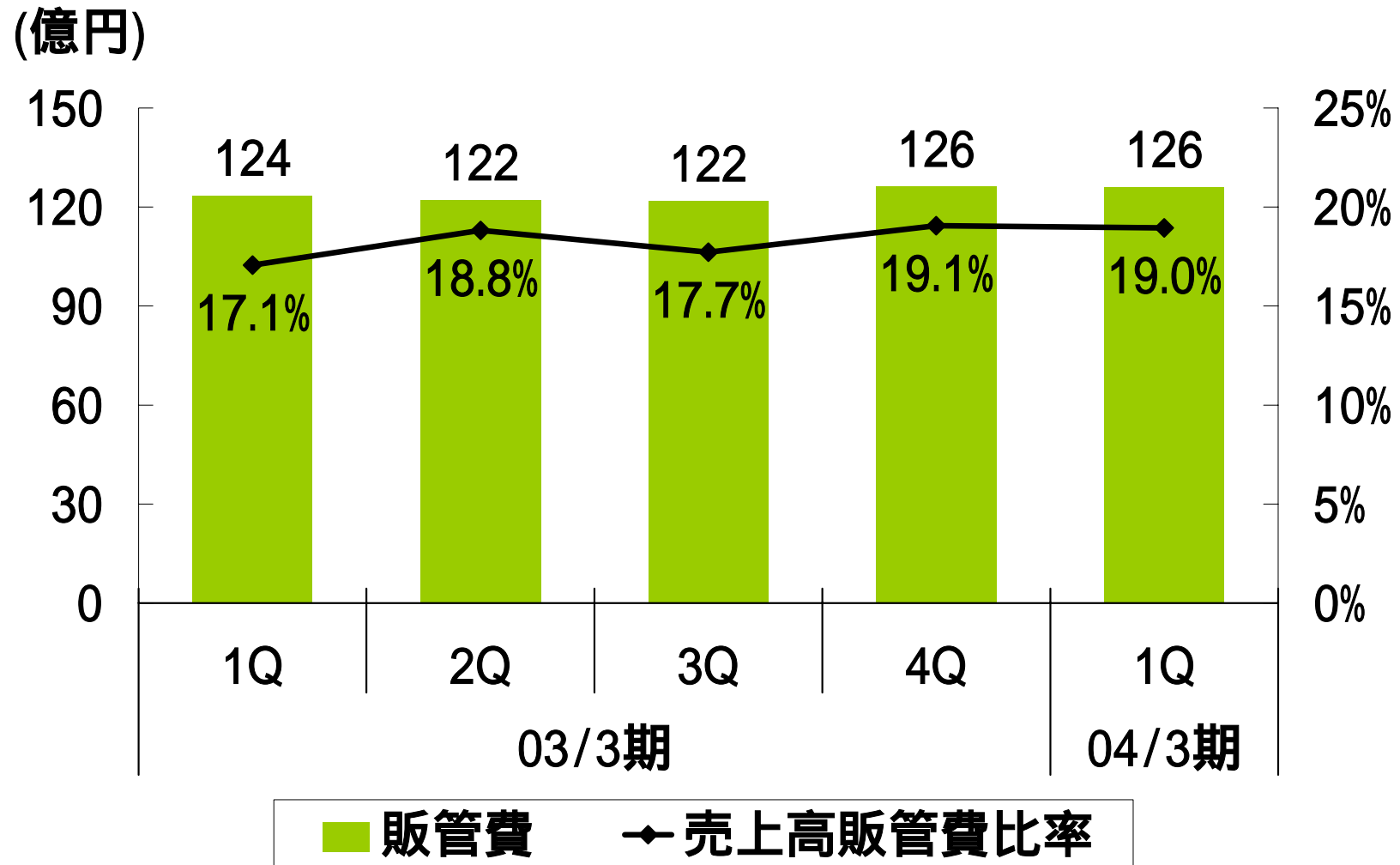
用途別売上高

	自動車	航空・宇宙	家電機器	情報通信機器	PC及び周辺機器	モータ	その他	合計
売上高比率	7.3%	10.0%	12.2%	8.2%	43.5%	5.1%	13.8%	100.0%
前四半期比 伸び率	-3.1%	-4.8%	+24.7%	-9.0%	-3.4%	-5.4%	+10.0%	+0.4%

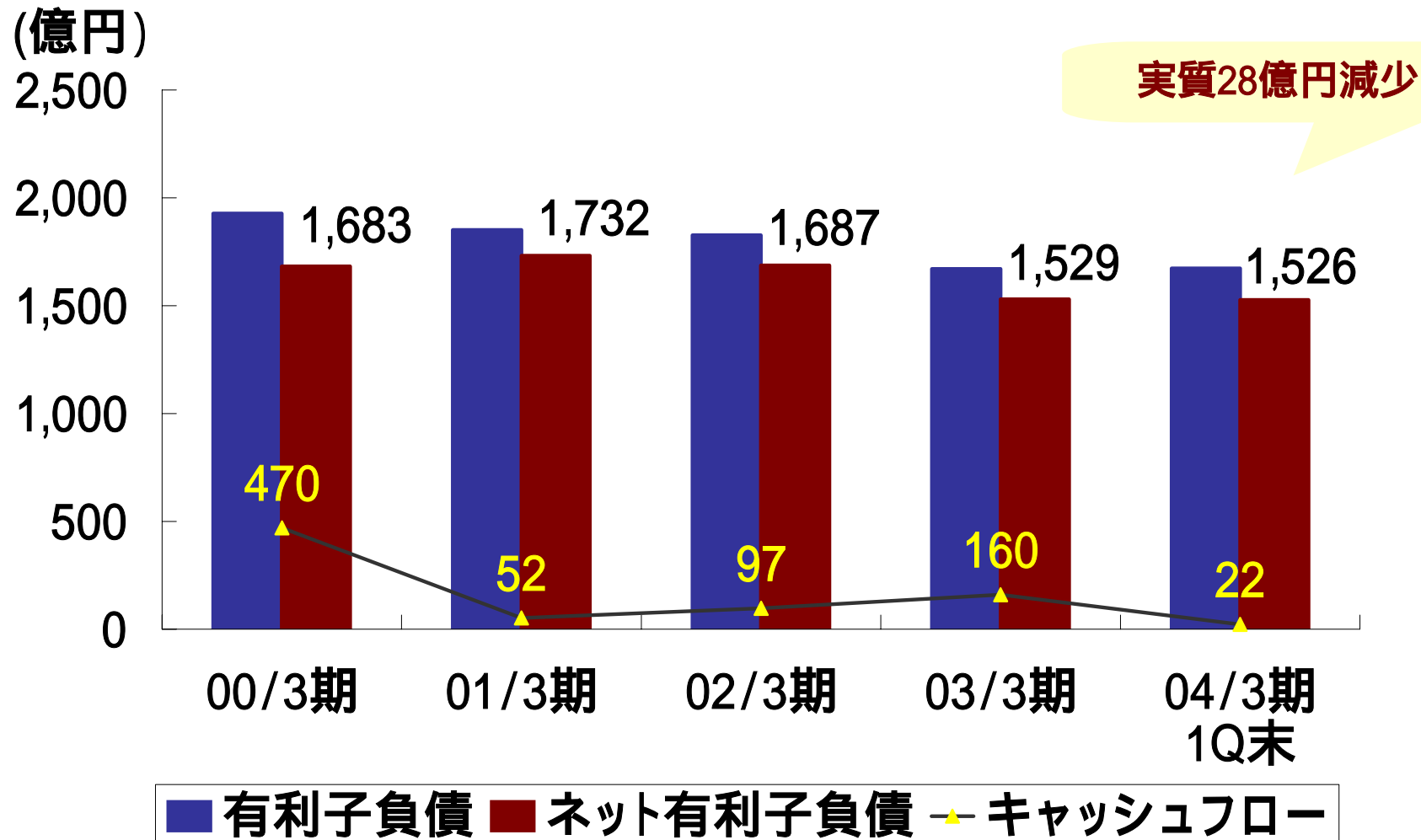
地域別売上高

	日本	アジア (除 日本)	北米	欧州	合計
売上高 比率	24.7%	45.7%	17.1%	12.5%	100.0%
前四半期比 伸び率	-4.1%	+11.3%	-15.4%	-0.7%	+0.4%

販管費推移



有利子負債推移



第2四半期の見通し

➤ 7月以降の需要環境

- 夏期休暇及びエアコンのピークオフの影響
- クリスマス商戦に向けたPC関連需要の立ち上がり
- HDD関連及びゲーム機向けの需要回復

➤ 業績見込み

- 売上高 第1四半期比 若干増を見込む
- 営業利益 営業利益率の若干増を見込む

上期営業利益は期初計画の88億円達成見込む

機械加工品セグメント 期初計画91億円 94億円

電子機器セグメント 期初計画 3億円 6億円

今期重点施策の進捗状況

施策6項目

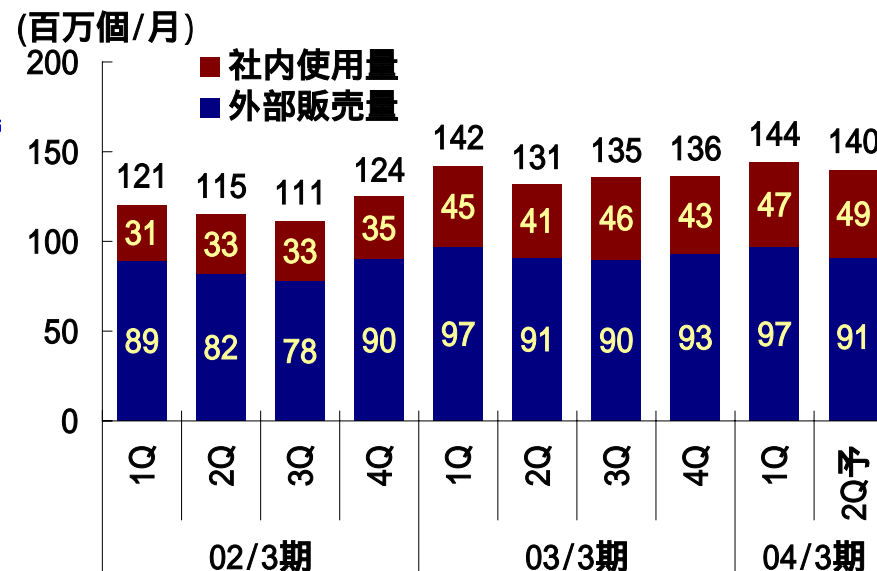
1. ボールベアリング事業の拡大及び強化
2. HDDスピンドルモーターの黒字化
3. ピボットアッセンブリーの採算性改善
4. その他の電子機器製品事業の収益性回復
5. ファンモーター事業の一層の拡大
6. 電源及び関連事業の終了

今期重点施策の進捗状況 ボールベアリング

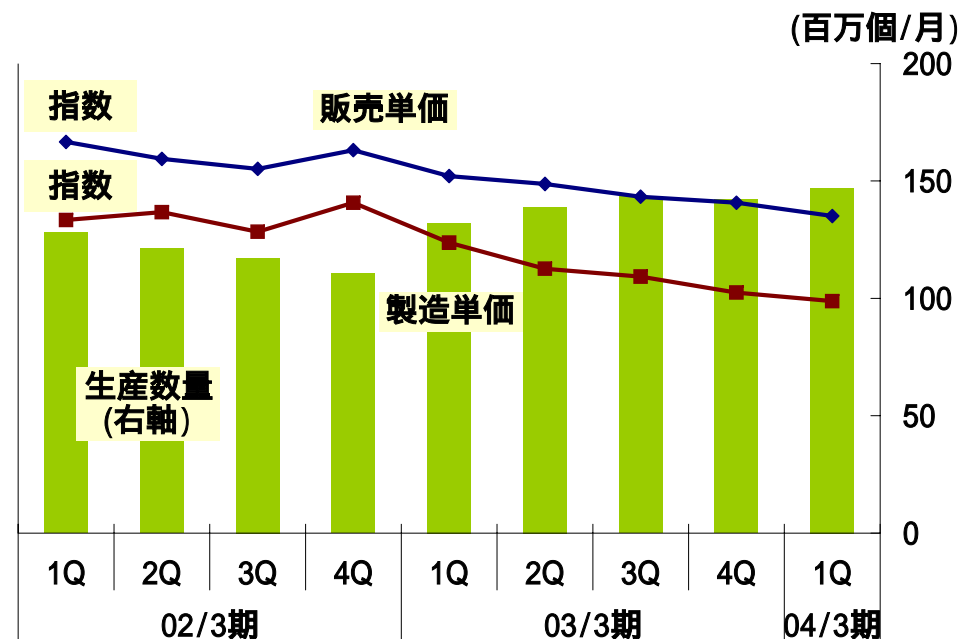
ミニチュア・小径ボールベアリング

- 第1四半期の社内使用を含めた販売数量は四半期ベースで過去最高。日本・アジアの販売増。
- 第2四半期の外販数量は夏期休暇及びエアコン需要の季節変動の影響により、前四半期比6%減見込む。
- 第3四半期以降の販売拡大に向けて拡販体制を一層強化。
- 販売単価は若干下落。
- サイクルタイムの短縮など全工程の効率向上により、製造原価の低減が進展。

ミニチュア・小径ボールベアリング販売数量推移



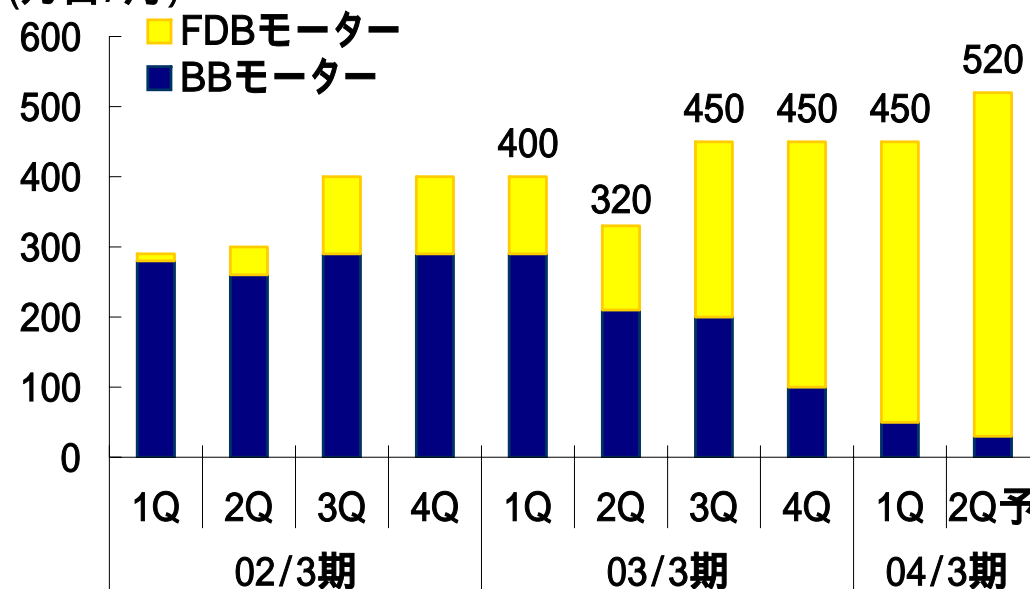
ミニチュア・小径ボールベアリング販売・製造単価推移



今期重点施策の進捗状況 HDDスピンドルモーター

- 第1四半期は、ユーザーの5、6月の生産調整の影響を受け販売は計画を下回ったが、前四半期の販売水準を維持。
- 歩留まり改善等により採算性は改善の方向へ。
- 80GB/プラッター3.5インチHDDモデルが本格化。
- 第2四半期は月平均520万台、前四半期比12%増見込む。
- 上期中の黒字化達成を見込む。

HDDスピンドルモーター販売数量推移
(万台/月)



今期重点施策の進捗状況

その他の製品

☆ ピボットアッセンブリー

- 第1四半期の販売数量はユーザーの生産調整の影響を受け減少。シェアは70%以上を維持。
- 第2四半期の販売数量は1割増加見込む。
- 販売単価に下げ止まり感。
- 製造コスト削減により採算性は改善方向へ。

☆ その他の電子機器製品

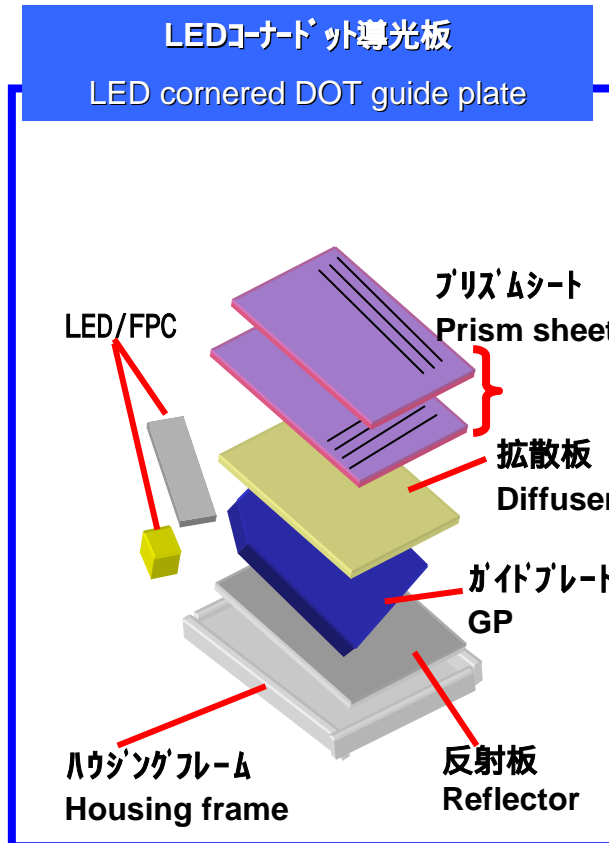
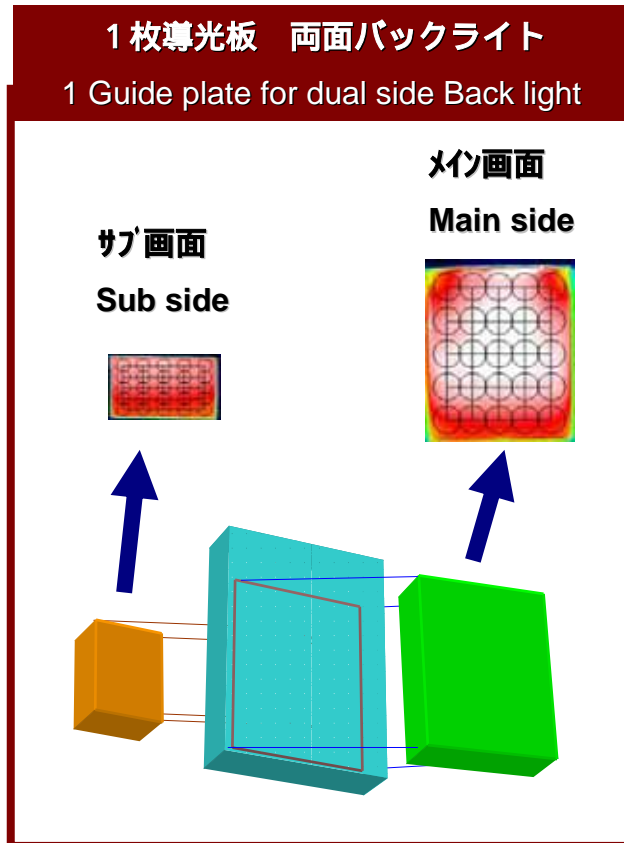
- エレクトロデバイスやスピーカー事業等の収益力改善は今期中の課題として取り組み中。
- ラइटニングデバイス事業が本格化、バックライトの新規アイテムが順次開始、デジカメや携帯電話の主要機種で当社製品が採用に。今期の売上目標は90億円。

ライティングデバイス

光学設計技術・光学薄膜生成技術
金型・成形・部品を含めた一貫開発・生産



高輝度
輝度均一性
薄型化
低消費電力
低コスト



今期重点施策の進捗状況

その他の製品

☆ ファンモーター

- 第1四半期はPC関連向けを中心に販売を拡大。
- 第2四半期はゲーム機用需要の回復も見込まれ、販売数量をさらに1割引き上げる計画。
- 迅速な客先ニーズへの対応、コスト競争力、安定した品質と納期で総合力を発揮、積極的な拡販を実施。
- 松下モータ社との共同開発は順調に進展。

☆ 電源及び関連事業

- 今期末までの事業終了へ向けて進行中。

その他主要製品の状況 キーボード

- 第2四半期は需要が徐々に回復する見通し。
- 8月下旬に中国工場SSTの操業開始予定。



中長期収益力向上に向けて

短期的な収益改善施策

今期重点施策6項目

中・長期的な収益力向上

総合的組織力の構築

◆ コアコンピタンス戦略（コアコンピタンスとの適合性を高めた製品群の構築を軸とする戦略）を企業価値向上に結び付ける経営

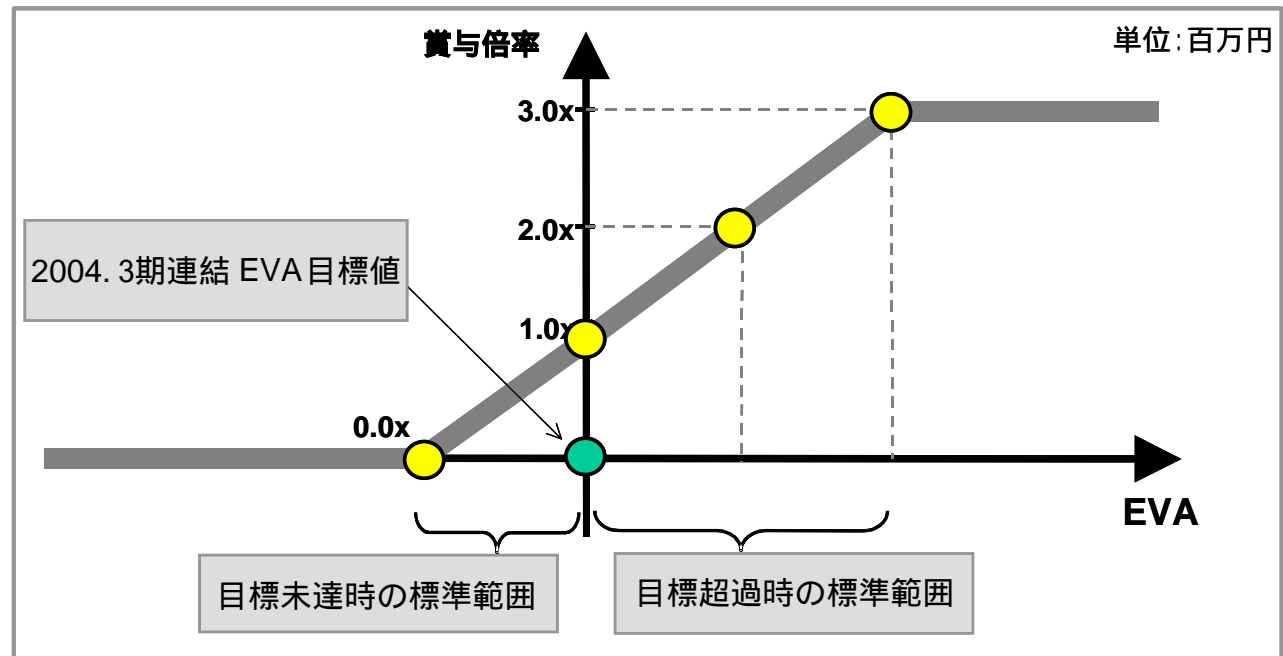
1. 事業の峻別
2. 戦略を高める組織運営
3. 戦略を迅速に行う実行力の向上
4. 明確な評価尺度の導入

EVA経営システム導入

EVA経営システム

- 今年4月より、連結EVA目標設定と測定及びEVAによる設備投資計画評価システム運用を開始。営業・製造別及び製品別EVA目標設定と測定及びその応用については現在システムを構築中。
- 今期冬季賞与から連結EVA連動賞与制度を導入。執行役員の賞与は全額EVA連動へ。

執行役員対象EVA連動賞与制度



環境保全に対する取り組み

- ◇ ソニー株式会社、ミネベアグループをグリーンパートナーとして認定(2003年7月)。
- ◇ 中国の国家環境保護総局が上海ミネベアの西岑新工場を国家環境TOP100プロジェクトの1つに選出(2003年7月)。
- ◇ 上海市環境保護局が上海ミネベアを上海市環境保護模範ベスト8社の1社に選出(2003年6月)。

ミネベア株式会社決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。